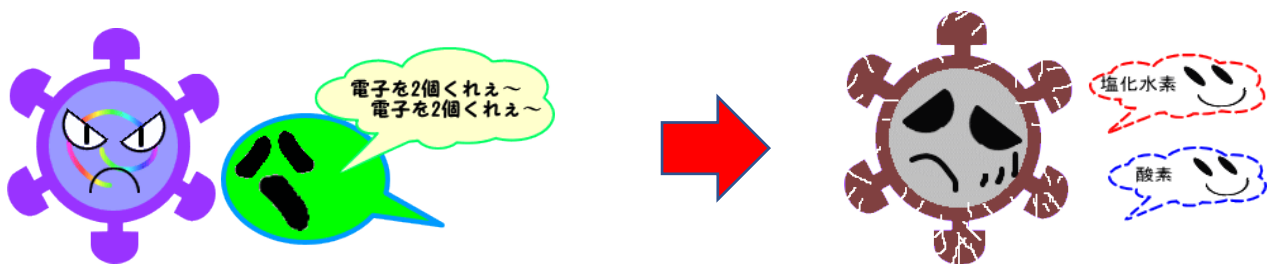


消毒液の取り扱いに注意しよう！ その3 次亜塩素酸水編

その3は、次亜塩素酸水編。次亜塩素酸水とは、塩酸または食塩水を電気分解した際に発生する水で、ph4~6程度の弱酸性で濃度が10~80ppmのものです。身近なところでは、一部のアルカリイオン整水器で造ることができる酸性水も次亜塩素酸水になります。昨今は消毒液のような扱いをされていますが、次亜塩素酸水は「殺菌剤」として分類されており、食品添加物の一種です。ただし、食品添加物でも出荷時点で残留がない状態にしないと使えません。

次亜塩素酸水の殺菌作用について



次亜塩素酸水に含まれる次亜塩素酸の酸化作用により、対象物から電子を奪って酸化させて無力化します。先に紹介した次亜塩素酸イオンよりも倍の酸化力を持ちますが、物質として脆いために長持ちしません。すぐに塩化水素や酸素などに分解してしまいます。

なぜか経済産業省だけが推しまくっている

経済産業省は製品評価技術基盤機構を通じて次亜塩素酸水の有効性を盛んにアピールする一方、肝心の厚生労働省においては新型コロナウイルスに対する有効性を認めておらず、研究結果も食い違う状態になっています。6月1日になって経済産業省も「新型コロナウイルスへの有効性は確認されていない。」と態度を改めました。蛇足ですが、経済産業省はエタノール50万トンを所管しており、未だに市場に出さずに抱え込んだままです。何をやりたいのかがなんとなくわかってしまいます。

!!! 取扱い上の注意 !!!

- ・弱酸性ですが、強酸性のものと混ぜると猛毒の塩素ガスが発生します。
- ・人体にはある程度使っても大丈夫ですが、T大統領を真に受けて飲むと、やはり死にます。
- ・金属も使えますが、やはり酸化する可能性があります。
- ・濃度が薄い上に安定性が低いので保存が効きません。長期間置いたものはただの水と変わりません
- ・光で次亜塩素酸の分解がさらに促進されて効果が薄れます。
- ・まがい物が多いため、購入の際は「製法（電解水）・原料」、「濃度」、「他の添加物」を確認
- ・吸引して安全という研究は行われていないため、噴霧しないこと。